

1 第1回実行委員会の振り返り

日時：平成29年3月27日（月） 14:00～16:00

場所：もぶるテラス

1. 公民一体型空間形成の取組み（昨年度の取組みのまとめ）

○事務局説明内容

- ・目的・ねらい
- ・実証実験の実施
- ・常設化に向けた官民連携方策の検討

○意見 特になし

2. 銀天街商店街周辺地区の特性と滞留空間形成の視点

○事務局説明内容

- ・銀天街商店街周辺地区の特性
- ・滞留空間形成の視点

○意見 特になし

3. 社会実験の企画

○事務局説明内容

- (1) 実施概要
- (2) ハード：滞留空間整備の方針
- (3) ソフト：市民参加プログラム（WS）
- (4) 広報
- (5) 実験の検証方法
- (6) 実施体制とスケジュール

泉谷委員（いよココロザシ大学）より事例紹介（銀天街でのWS実施や活用の事例）

○主な意見

◇実験の企画・実施

- ・場所を使用することは協力させていただく。最終的には、今回実験を行うきらりんの場所の意義やどうすれば賑やかになるかを考えてほしい。
- ・空き店舗が増加している中、このような活用を行政と連携してできるのはよいこと。店舗前での使い道を考えてどのような形になるのか非常に楽しみ。
- ・生活感のある商店街としてみたときに、500mある銀天街の途中の仕掛けが魅力として大事。
- ・イベントではなく、仕組み作りとしてやらないと一過性のものになってしまう。

◇実験の検証

- ・実験で動線に変化ができるのでそれが重要。休憩から外へと展開をしていく際の使われ方が気になる。どのような目的で使われたのか調査するべき。
- ・空き店舗も空間の話も流動性、回遊性や密度があがるか、どうか重要。
- ・歩行者動線の変化は、把握方法を工夫しないと立ち止まった人のカウントで終わる。

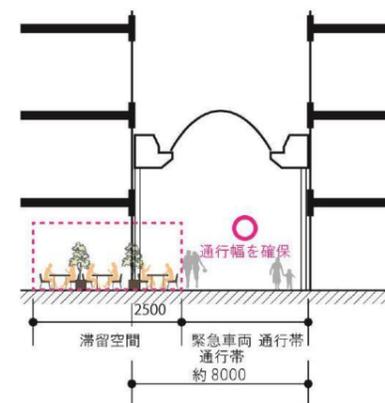


◇銀天街らしい滞留空間のあり方

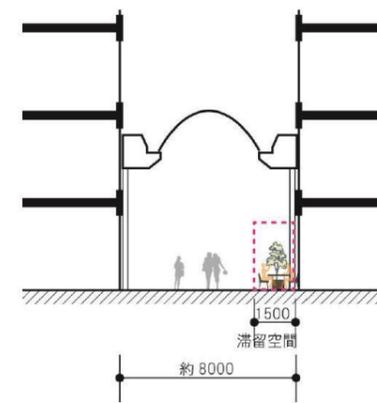
- ・銀天街は大街道より周辺に住んでいる人が多い。利用者も多様で、時間帯、季節、天気でも行動が変わる。どの世代、どういう人、が多いのか、そういう切り口でやると面白い。
- ・ソフトとハードのデザインにおいて、長期的なエリアの価値や空間のあり方という視点をもって銀天街の歴史や特徴を反映できればいいと思う。
- ・椅子といってもベンチや折り畳みなどがあるし、ソファなどもある。ターゲットとあわせて考える必要があるが、現実的に難しければ、だめなものだけを決めておけば良い。

※滞留空間形式の配置イメージ

パターンA：建物内外を利用した滞留空間



パターンB：店舗前を利用した滞留空間



◇持続できる仕組み

- ・持続的にやるための、当面の目標を見据えた仕組みをこの委員会で提案する必要がある。どういう目標で改善していく活動か、その仕組みを提案していきたい。

◇広報およびシャッターの活用

- ・広報はビジョンも使えるので是非使ってほしい。ワークショップでアイデアを出してもらってもいい。掲示板も使える。また、上の吊看板も調整は必要だが使えなくもない。
- ・他の店舗のシャッターの活用について、組合側は話す機会は作れる。各店舗のオーナーによって、地主とテナントと建物の所有者がおり、さらに相続で分けられているなど、個別の問題があるので、丁寧に進めていきたい。公共性があるデザインでないといけないし、学生が考えてくれる等そういう仕組みがいい。
- ・シャッター活用はとても良いと思うが、来るたびにボードの内容が変わっているということが大事。

◇WSの運営

- ・ワークショップ自体の立てつけをしっかりとしておく必要がある。

◇まとめ

- ①取組としての当面の目標指標を見据えておく。
- ②銀天街らしい視点・歴史を意識した空間づくりをする。
- ③時間帯ごとにターゲットが異なるので、検証を含め、そういう視点を大事にする。
- ④継続的な視点を入れるとして、組織体制を検討すべき
- ⑤広報やシャッターの活用ワークショップなどで、考えていく。様々できることがある。
- ⑥設えについては出来る範囲で皆さんの意見を参考にしながら、長期的によいものを考えるようにする。